



5.1CH ホームシアターシステム

取り扱い説明書

ご使用の前に必ずお読みください。
この度は、5.1CHホームシアターシステムをお買い上げ
頂きましてありがとうございました。本品を安全にかつ機
能を十分に ご使用頂く為に、本書をよくお読みください。
そのあと大切に保存し、必要なときにお読みください。

保証書
別添付

保証書は必ず「お買い上げ日・販売店名」などの記入を確
かめて、販売店からお受け取りください。



もくじ

	ページ
安全の注意	1～4
警告……………	1～2
注意……………	3～4
ご使用になる前に	5
サラウンドフォーマットについて	6
付属品を確認する	7
リモコンを準備する	7
各部の名称とはたらき	8～9
アンプ内臓サブウーファー……………	8
リモコン……………	9
スピーカーを組み立てる	10
スピーカーを設置する	11
接続のしかた	12～15
正しい接続のために……………	12
外部機器とのつなぎかた……………	13
スピーカーのつなぎかた……………	14
電源コードのつなぎ方……………	15
スピーカーの音量を調節する	16
テストトーンで調節する……………	16
音声を再生する	17
音声の到達時間を調節する	18

	ページ
様々なシネマDSP プログラムを楽しむ	19
その他の再生モードで楽しむ	20
故障かな？と思ったら	21～22
製品の仕様について	23
保証とアフターサービス	24

映画館のような臨場感を
ホームシアターで

映画館で味わうような迫力と臨場感あふれる5.1チャンネルオーディオの音場を、EPD-630ホームシアターサウンドシステムでお楽しみください。

本書の記載について

- 本書では、本体とリモコンのどちらでも操作できる場合は、リモコンでの操作を中心に記載しています。
- 本取扱説明書は製品開発に先がけて印刷されております。その後、操作性の向上、その他の理由により、製品仕様の一部が変更となることがあります。その場合は製品自体の仕様が優先されます。
- 説明の便宜上、文中のイラストや名称等が実際の製品や梱包箱等と異なる場合があります。

安全上のご注意

正しく安全にご使用頂くため、ご使用前に必ずお読み下さい。

この「取扱説明書」および製品への表示では、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止する為に、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次の様になっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。



警告

この表示欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。



注意

この表示欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

【表示例】



△ 記号は注意(警告を含む)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容(左図の場合は感電注意)が描かれています。



⊘ 記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容(左図の場合は分解禁止)が描かれています。



● 記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。図の中や近傍に具体的な指示内容(左図の場合は電源プラグをコンセントからぬく)が描かれています。

警告

■故障したままの使用はしない。



電源プラグをコンセントから抜いてください。

万一、煙が出ている、変な臭いや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因になります。すぐに本体の電源を切り、煙が出なくなるのを確認して、販売店または弊社までご連絡ください。

■絶対に裏フタ、カバーは外さない、改造しない。



分解禁止

本体の裏フタ、カバーは絶対に外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。

■100V以外の電圧で使用しない。



本機は国内専用機器です。
表示された電源電圧交流100V以外の電圧や船舶などの直流DC電源には絶対に接続しないでください。火災感電の原因となります。

警告

■通風口をふさがない。



本体の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。

本体を設置する場合は、壁面から10cm以上の間隔をあけて設置してください。また、放熱を良くする為に、他機器との間は、少しはなして置いてください。ラックなどに入れる場合は、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすき間をあけてください。内部に熱がこもり、火災の原因となります。

■水の入った容器をそばに置かない。



本体の上に花瓶、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれて中に入った場合、火災、感電の原因になります。

■本体の中に物を入れない。



本体の通風孔に金属類や可燃物などを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災、感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

■電源コードを傷つけたり、加工したりしない。



電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したりしないでください。また、思い物をのせたり、加熱したり、引っばったりすると電源コードが破損し、火災、感電の原因となります。

電源コードが傷んだら、使用をすぐに中止してください。

■落としたり、破損した状態で使用しない。



電源プラグをコンセントから抜いてください。

本体を、万が一誤って落としたり、キャビネットが破損した場合は、使用しないでください。

■雷が鳴りだしたら機器に触れない。



接触禁止

雷が鳴りだしたら、電源プラグには触れないで下さい。感電の原因になります。

⚠ 注 意

■設置上の注意



強度の足りない台や、ぐらついた所、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。

本体の上に他のオーディオ機器をのせたまま移動しないでください。倒れたり、落下したりしてケガの原因になることがあります。

本体の上に、重たい物や外枠からはみ出るような大きい物を置かないでください。バランスが崩れて倒れたり落下してケガの原因になることがあります。

移動する場合は、サランネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やケガの原因になることがあります。



移動させる時は、電源を切り、接続コードやスピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など、思わぬ事故の原因になることがあります。

本機は置き型スピーカーになりますので、壁や高いところへの設置はお止めください。万が一スピーカーの落下等によるケガ、損傷の責任は一切負いかねます。

■次の場所には設置しない。



調理台や加湿器のそばなど、油煙や湯気のあたる所に設置しないでください。火災、感電の原因になります。

湿気やほこりの多い所に設置しないでください。火災、感電の原因になることがあります。

■長時間の外出や旅行等、使用しないとき。



安全のため、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となる場合があります。

■使用上の注意



電源を入れた時は、音量に注意してください。過大入力でスピーカーを破損したり、突然大きな音が出て、聴力障害の原因になることがあります。

長時間音がひずんだ状態で使用しないでください。アンプ、スピーカー等が発熱し火災の原因になることがあります。

本体に乗ったり、ぶら下がったりしないでください。特にお子様には注意してください。倒れたり、壊れたりして、けがの原因になることがあります。

■接続は正しく行う。



本体を他のオーディオ機器やテレビなどの機器に接続する場合は、それぞれの機器の取り扱い説明書を熟読し、電源を切り、説明に従って接続してください。また接続は指定のコードを利用してください。指定以外のコードを使用したり延長したりすると、発熱しやけどの原因になる可能性があります。

⚠ 注 意

■お手入れの際は、電源プラグを抜く。



電源プラグをコンセントから抜いてください。

安全のため、電源プラグをコンセントから抜いてください。感電の原因となる場合があります。

電源プラグにたまったほこりは定期的に取り除いてください。ほこりに発火し、火災の原因になることがあります。

シンナー、アルコール、スプレー式殺虫剤を本体にかけないでください。塗装がはげたり、変形したりすることがあります。

■電源コード、電源プラグの注意。



電源コードを熱器具に近づけないでください。コードの被覆が溶けて火災、感電の原因になることがあります。

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因になることがあります。



電源プラグをコンセントから抜いてください。

電源プラグを抜くときは、電源コードをひっぱらないでください。コードが傷つき、火災、感電の原因になることがあります。必ず、先端のプラグを持って抜いてください。

電源コードを束ねた状態で使用しないでください。発熱し、火災の原因となる場合があります。

■スピーカーコードについて。



スピーカーコードの配線された位置によっては、つますいたり引っかかったりして落下、転倒などの事故の原因になることがあります。特にフロント/サラウンドスピーカーには気を付けてください。



スピーカーコードを傷つけたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。火災・感電の原因になります。

■電池は正しく入れる。



電池をリモコンに挿入する際に、プラス極、マイナス極に注意し、表示通りに入れてください。間違えると電池の破裂、液漏れにより、火災やケガ、周囲を汚損する原因になることがあります。



指定以外の電池は使用しないでください。また、新しい電池と古い電池、種類の違う電池は一緒に使用しないでください。電池の破裂、液漏れにより火災やケガ、周囲の汚損の原因になることがあります。

電池は加熱、分解したり、水や火の中に投入しないでください。

ご使用になる前に

■お取り扱い上の注意

本機は、通常の音楽再生では問題ありませんが、以下のような特殊な信号が加えられますと、過大電流による焼損断線事故のおそれがありますのでご注意ください。

- ① FMチューナーが正しく受信されていない時のノイズ
- ② 発信器や電子楽器等の高い周波数成分の音
- ③ オーディオチェック用CDなどの特殊な信号音
- ④ マイク使用時のハウリング
- ⑤ テープレコーダーを早送りしたときの音
- ⑥ アンプが発振しているとき
- ⑦ ピンコードなど、接続端子の抜き差し時のショック音

■音のエチケット



楽しい音楽や、映画の音も、場合によっては気になるものです。隣近所への配慮を十分いたしましょう。特に静かな夜間には、小さな音でも通りやすいものです。、夜間の音楽鑑賞には、特に気を配りましょう。窓を閉めたり、ヘッドホンをご利用になるのも一つの方法です。お互いに心を配り、快適な生活環境を守りましょう。

■テレビやパソコンの近くで使用する

一般に、カラーテレビやパソコンに使用されているブラウン管は、地磁気の影響さえ受けるほどデリケートなもののなので、普通のスピーカーを近づけて使用すると、画面に色むらやひずみが発生します。発生したら、一度テレビの電源を切り、15～30分後に再度スイッチを入れてください。テレビの自己消磁機能によって画面への影響が改善されます。それでも改善されない場合は、スピーカー、ウーハーをテレビから離してください。また、近くに磁石など磁気を発生するものがあると本体との相互作用により、テレビに色むらが発生する場合があるので設置には注意してください。

■お手入れについて

製品の表面は時々柔らかい布でからぶきしてください。汚れがひどい時は、薄めた中性洗剤に、柔らかい布を浸し、固く絞って汚れを拭き取り、乾いた布できれいにふきとってください。固い布や、シンナー、アルコール等は使用しないでください。化学ぞうきん等を使用する時は、それに付属の注意書きに沿って使用してください。スピーカーのサラネットにほこりがついた時は、掃除機で吸いとりか、ブラシをかけて取り除いてください。

■設置上の注意

- ① 強度の足りない台や、ぐらついた所、傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。
- ② 本体の上に他のオーディオ機器をのせたまま移動しないでください。倒れたり、落下したりしてケガの原因になることがあります。
- ③ 本体の上に、重たい物や外枠からはみ出るような大きい物を置かないでください。バランスが崩れて倒れたり落下してケガの原因となることがあります。
- ④ 移動する場合は、サラネットやスピーカーユニットに手をかけないでください。故障やケガの原因となることがあります。
- ⑤ 移動させる時は、電源を切り、接続コードやスピーカーコードをはずしてから行ってください。落下や転倒など、思わぬ事故の原因となることがあります。
- ⑥ 本機は置き型スピーカーになりますので、壁や高いところへの設置はお止めください。万が一スピーカーの落下等によるケガ、損傷の責任は一切負いかねます。

サラウンドフォーマットについて

本機は、ドルビーデジタル/ドルビープロロジックII/DTSに対応しております。

■ドルビーデジタル



ドルビーデジタルはドルビー研究所が開発した、AC-3で情報圧縮された5.1チャンネルの完全独立デジタルディスクリット方式のフォーマットです。フロント3ch(FL、C、FR)、サラウンド2ch(SL、SR)と低音効果用の0.1chの信号がデジタルで独立して記録されるため、アナログ方式のドルビープロロジック・サラウンドに比べチャンネル間の干渉、クロストークもなく、リアルで立体感のある音場を再現します。

■ドルビープロロジックII



ドルビープロロジックIIは最新のデジタルマトリクス技術を用いドルビープロロジックをさらに改良したマトリクスデコード技術で、ドルビープロロジックエンコードしたソースはもとより、CDのような通常の音楽素材も5chの信号にエンコードし、優れた立体音場効果を発揮します。サラウンドチャンネルはステレオ化、フルバンド化(周波数特性20～20kHz以上)され、あらゆるステレオ音源を臨場感豊かな立体音場でお楽しみいただけます。

■DTS(Digital Theater System)



DTSは、高品質デジタルサラウンドフォーマットの世界的な商標名です。DTS社のデジタルオーディオ技術は、他のエンコードフォーマットに比べ、限りなくオリジナルのマスタークオリティーに近いサウンドを体験でき、広く好まれています。

DTS (Digital Theater System) についての注意

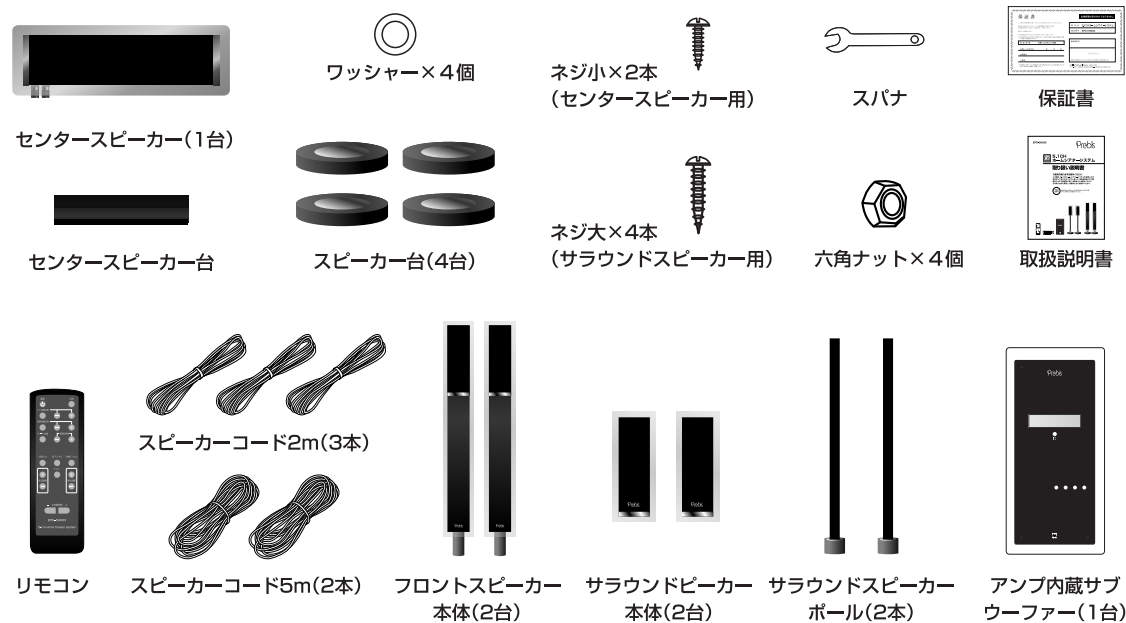
DTS対応のCDやLDをアナログ再生すると、DTS信号をそのまま再生するためノイズが出力されます。このノイズを再生すると、本機やスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTS対応のCDやLDを再生するときは、再生器機の出力端子を本機のDIGITALインプット端子(OPTICALもしくはCOAXIAL)に接続し、デジタルで再生してください。

一部のCDまたはLD、DVDプレーヤーでは、本機とデジタル接続しても正しくDTSが再生されない場合があります。出力されているDTSデータに何らかの処理(出力レベル調整、サンプリング周波数変換、周波数特性変換など)が行われていると、本機が正しいDTSデータと認識できず、ノイズが発生することがあります。DTS対応のCDやLDをアナログ再生すると、DTS信号をそのまま再生するためノイズが出力されます。このノイズを再生すると、本機やスピーカーにダメージを与える恐れがありますので、DTS対応のCDやLDを再生するときは、再生器機の出力端子を本機のDIGITALインプット端子(OPTICALもしくはCOAXIAL)に接続し、デジタルで再生してください。

DTS対応ディスクを再生している時に、プレーヤー側で一時停止やスキップ等の操作をするとごく短時間ノイズが発生する場合がありますが、これは故障ではありません。

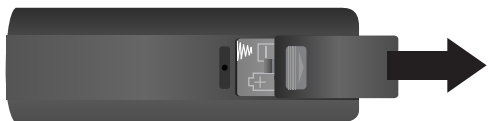
付属品を確認する

※全て揃っているか最初に確認してください。

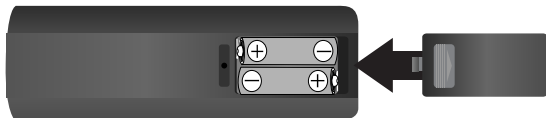


リモコンを準備する

- ① 電池フタを外す。



- ② むきに注意して乾電池を入れ、フタを閉める。



単四乾電池2個(別売)

電池が消耗した時は交換してください。

電池が消耗すると、リモコンを操作できる距離が極端に短くなります。このような場合は、新しい単4電池に交換してください。

ご注意

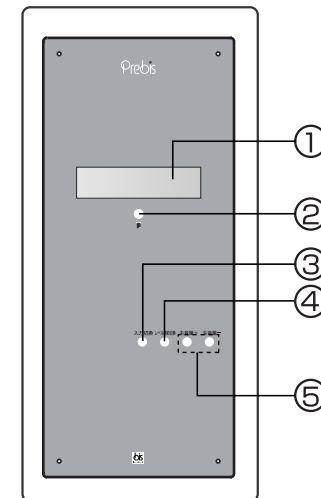
電池の取り扱いを誤ると火事や爆発などの原因になることがありますので、十分ご注意ください。

電池を分解しないでください。

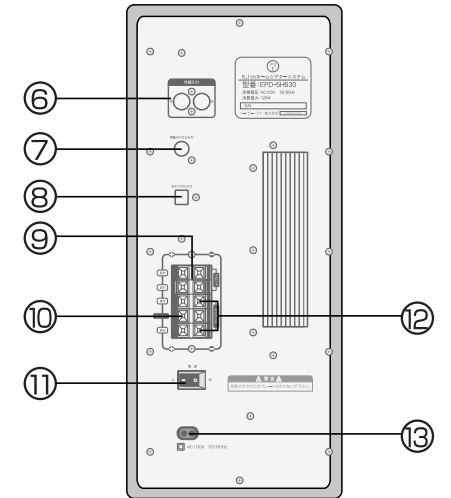
- 新しい電池に交換するときはプラスとマイナスを逆にしないでください。火事や爆発の原因になることがあります。
- リチウム電池や、電池の入ったリモコンを直射日光が当たる所など温度が上昇する場所に置かないでください。
- 電池を交換するときは、必ず単4型電池をご使用ください。電池はお子さまの手の届かないところに保管してください。
- あやまって飲み込んだりした場合は、大至急医療手当てを行ってください。
- 電池を捨てるときは必ずテープなどにくるみ、お住いの地方自治体で定める規則に従って破棄してください。火のなかには絶対に入れないでください。
- 電池が液漏れをした場合はただちに電池を破棄し、漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。液にふれるとやけどをすることがあります。やけどをした場合はただちに水で洗い流し、医療手当てを受けてください。

各部の名称とはたらき

■アンプ内蔵サブウーファー



本体正面



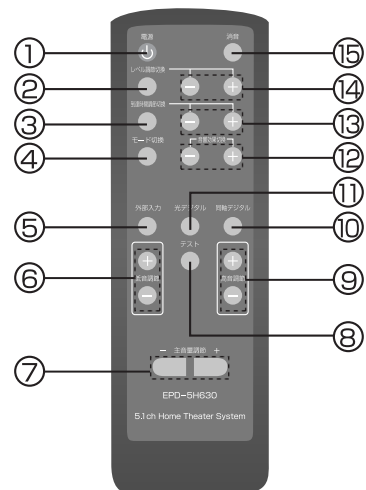
本体背面

- ① ディスプレイ
操作に合わせて表示が変わります。
- ② リモコン受光部
リモコンは受光部に向けて操作して下さい。
- ③ 入力ソース切換キー
外部入力・光デジタル入力・同軸デジタル入力の入力ソースを切り換えます。
- ④ レベル調節切換キー
個別に音量を調整したいスピーカーを選択します。
- ⑤ 主音量+/-調整キー
+を押すと全体の音量が大きくなり、-を押すと全体の音量が小さくなります。

- ⑥ 外部(アナログ)入力端子
外部(アナログ)出力端子を持った機器と接続します。
- ⑦ 同軸デジタル入力端子
同軸デジタル出力端子を持った機器と接続します。
- ⑧ 光デジタル入力端子
光デジタル出力端子を持った機器と接続します。
- ⑨ フロントスピーカー出力端子(右・左)
フロントスピーカーを接続します。
- ⑩ センタースピーカー出力端子
センタースピーカーを接続します。
- ⑪ 電源切換(ON・OFF)
電源を切り換えるごとにスリープ状態のON・OFFを切り換えます。
※スリープ状態では、リモコンからの赤外線信号を受信するために、少量ながら電力を消費します。また、微音ノイズが発生する場合がございます。
- ⑫ サラウンドスピーカー出力端子(右・左)
サラウンドスピーカーを接続します。
- ⑬ 電源コード差し込み口
電源コードを接続して下さい。

各部の名称とはたらき

リモコン



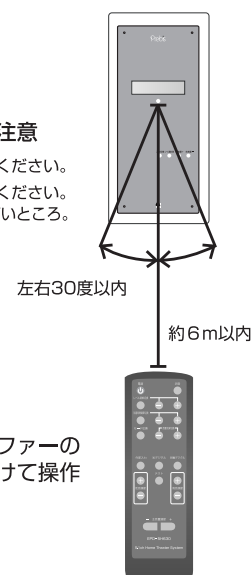
- ① **電源キー**
キーを押すごとに、アンプ内蔵サブウーファーをスリープ状態から電源ON・OFFに切換えます。
- ② **レベル調節切換キー**
キーを押すごとに、センタースピーカー・サラウンドスピーカー・サブウーファーの順でレベルを調節するスピーカーを切り換えます。
※AUXモード時はサブウーファーのみ。
- ③ **到着時間調節切換キー**
キーを押すごとに、センタースピーカー・サラウンドスピーカーの順で音の到着時間を調節するスピーカーを切り換えます。
- ④ **モード切換キー**
キーを押すごとに、MOVIE・MUSIC・DIGITAL・STEREOの順で切り換わります。
「ソースの音声を忠実に再現する」(20ページ)をご覧ください。
- ⑤ **外部入力切換キー**
キーを押すと外部入力に入力ソースが切り換わります。
- ⑥ **低音調節キー**
+を押すと低音が強くなり、-を押すと低音が弱くなります。
- ⑦ **主音量調節キー**
+を押すと全体の音量が大きくなり、-を押すと全体の音量が小さくなります。

- ⑧ **テストトーンキー**
スピーカーからテストトーンを鳴らすときに押します。テストトーンは各スピーカー間の音量バランスを調節するのに役立ちます。
- ⑨ **高音+/-調整キー**
+を押すと高音が強くなり、-を押すと高音が弱くなります。
- ⑩ **同軸デジタル入力切換キー**
キーを押すと同軸デジタル入力に入力ソースが切り換わります。
- ⑪ **光デジタル入力切換キー**
キーを押すと光デジタル入力に入力ソースが切り換わります。
- ⑫ **音響効果切換キー**
キーを押すとTHEATER・CHORUS・HALL・STADIUM・CHURCH・LIVE・MATRIXと音響効果が切り換わります。「様々なシネマDSP音響プログラムを楽しむ」(19ページ)をご覧ください。
- ⑬ **到達時間+/-調整キー**
到達時間調節切換キーを押して、切り換わったスピーカーの到達遅延時間を調整します。
- ⑭ **レベル+/-調整キー**
レベル調節切換キーを押して、切り換わったスピーカーの音量を調整します。
- ⑮ **消音キー**
音声を消音します。

リモコンの使用について

リモコンの取り扱いについてのご注意

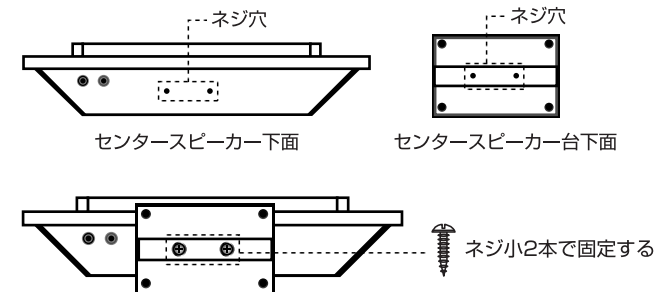
- ・水やお茶をこぼしたり、落としたりしないでください。
 - ・下記のような場所には置かないよう、ご注意ください。
1. ストープのそばや風呂場など、温度・湿度の高いところ。
 2. ほこりの多いところ。
 3. 極端に寒いところ。



アンプ内蔵サブウーファーのリモコン受光部に向けて操作して下さい。

スピーカーを組み立てる

センタースピーカーを組み立てる。

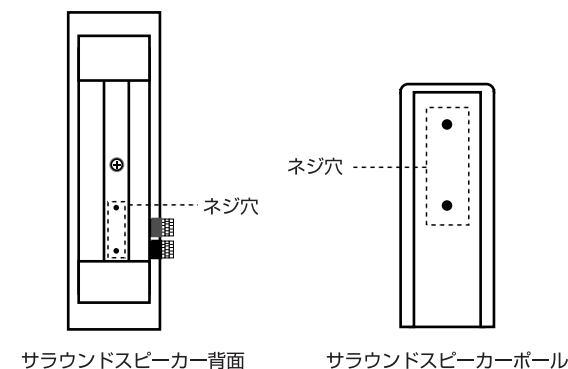


センタースピーカーとセンタースピーカー台のネジ穴を、+ドライバーを用いてネジ小2本でしっかりと固定して下さい。

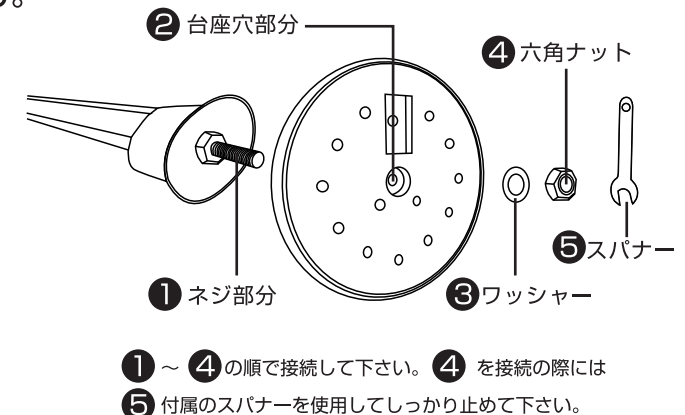


完成図

サラウンドスピーカーを組み立てる。



サラウンドスピーカーとサラウンドスピーカーポールのネジ穴を、+ドライバーを用いてネジ大2本でしっかりと固定して下さい。



- ① ~ ④ の順で接続して下さい。④ を接続の際には
- ⑤ 付属のスパナを使用してしっかりと止めて下さい。



完成図

スピーカーを設置する

システム構成

本システムは以下の製品で構成されています。



アンプ内蔵サブウーファー(1台)



センタースピーカー(1台)



サラウンドスピーカー(2台) フロントスピーカー(2台)

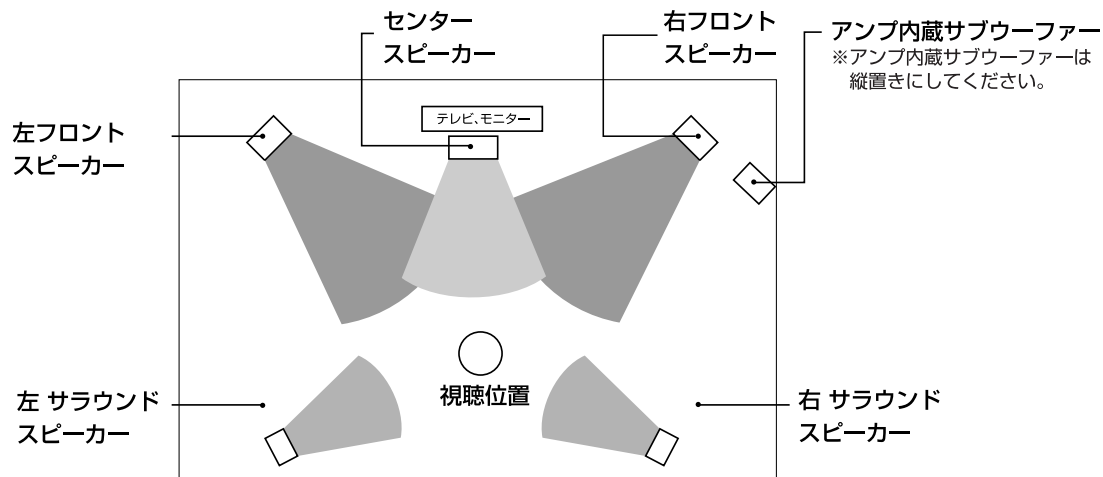


各スピーカーの役割

サラウンド再生の場合、フロントスピーカー(右、左)はメインチャンネルからのメイン音声信号を再生します。また、サラウンドスピーカー(右、左)はサラウンドチャンネルからの効果音等を再生し、センタースピーカーはセンターチャンネルからの音声信号(人物の会話など)を再生します。アンプ内蔵ウーファーは低音補強用として、フロント、サラウンド、センターの各チャンネルからの低域成分のみを集め再生します。また、ドルビーデジタルやDTS再生の場合、サブウーファー(LFE)チャンネルからの特殊低域効果音なども再生します。

スピーカーの配置について

スピーカーの配置は、システム全体の音質に大きく影響します。下記の説明にしたがい、各スピーカーを適切な位置に設置してください。



フロントスピーカー (右・左)

従来のステレオ再生と同様に、左右のスピーカーをリスニングポジションから等距離に設置します。テレビ(モニター)を設置している場合は、テレビ(モニター)から少し離れた左側と右側に設置してください。

サラウンドスピーカー (右・左)

リスニングポジションよりも後方、または部屋の両サイドに設置します。

センタースピーカー

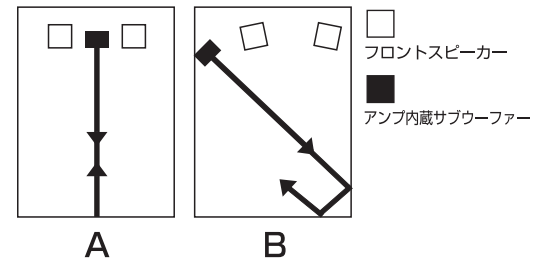
左右フロントスピーカーの間(各フロントスピーカーから等間隔の位置)に設置します。

アンプ内蔵サブウーファー

サブウーファーはリスニングポジションの斜め前方で、安定した平らな固い床の上に置きます。

サブウーファーの向き

図Aのように壁に対して正面に向けて設置すると、サブウーファーからの音と壁からの反射音がぶつかり互いに打ち消し合って聴こえにくくなるので、図Bのように壁に対して斜めに設置すると効果的です。



※テレビ(モニター)の映像が乱れるときには、スピーカーをテレビ(モニター)から離して設置してください。

接続のしかた

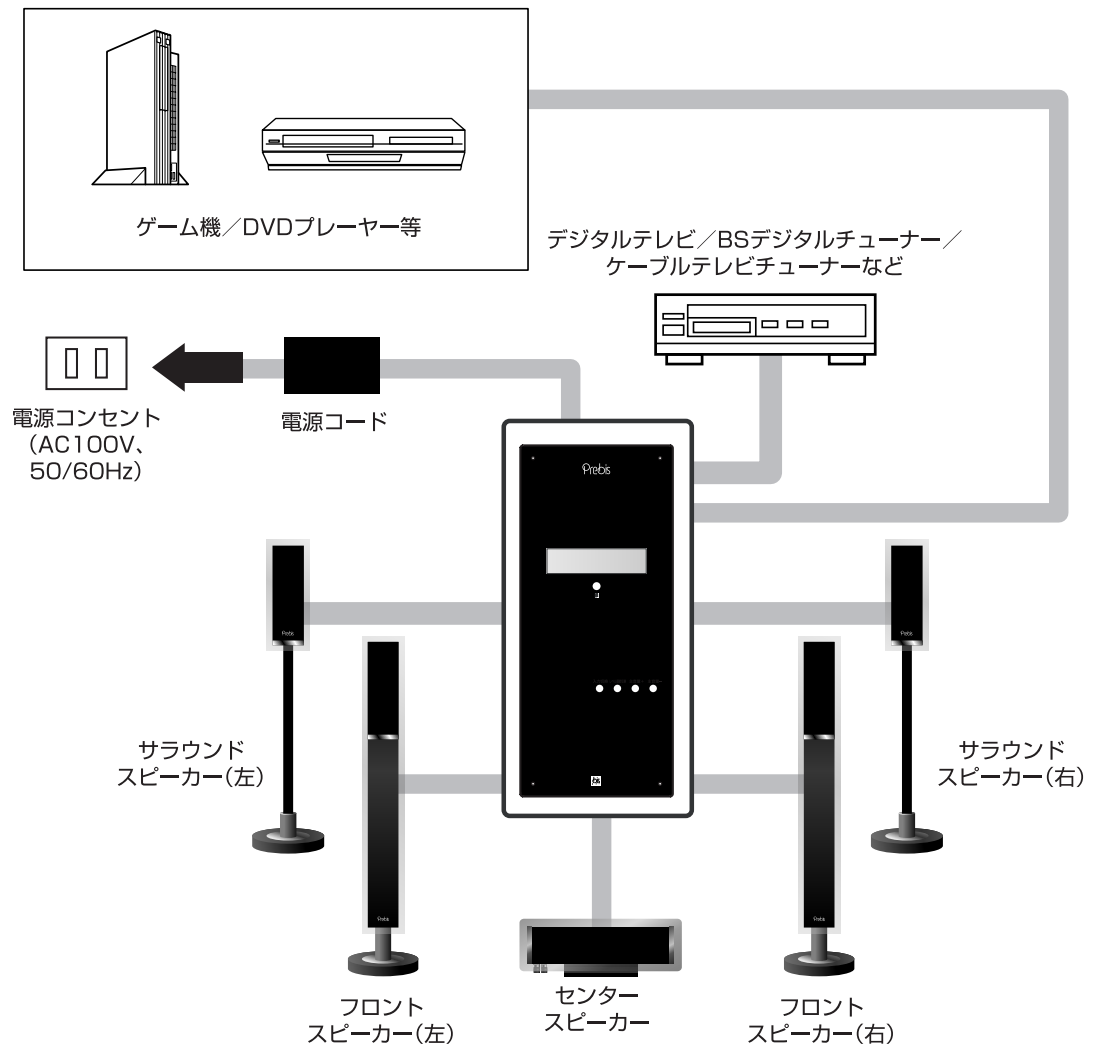
接続をおこなう前に、接続するすべての機器の電源コードをコンセントから外してください。
また、付属のACアダプターは接続が完了した後でアンプ内蔵サブウーファーに接続してください。

正しい接続のために

- ・プラグ・コードはしっかり差し込んでください。しっかり差し込まれていないと音が出なかったり雑音の原因となります。
- ・接続する機器によっては接続方法や端子名が異なることがありますので、それぞれの機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- ・接続が終わったら正しく配線されているか、もう一度お確かめください。

ご注意

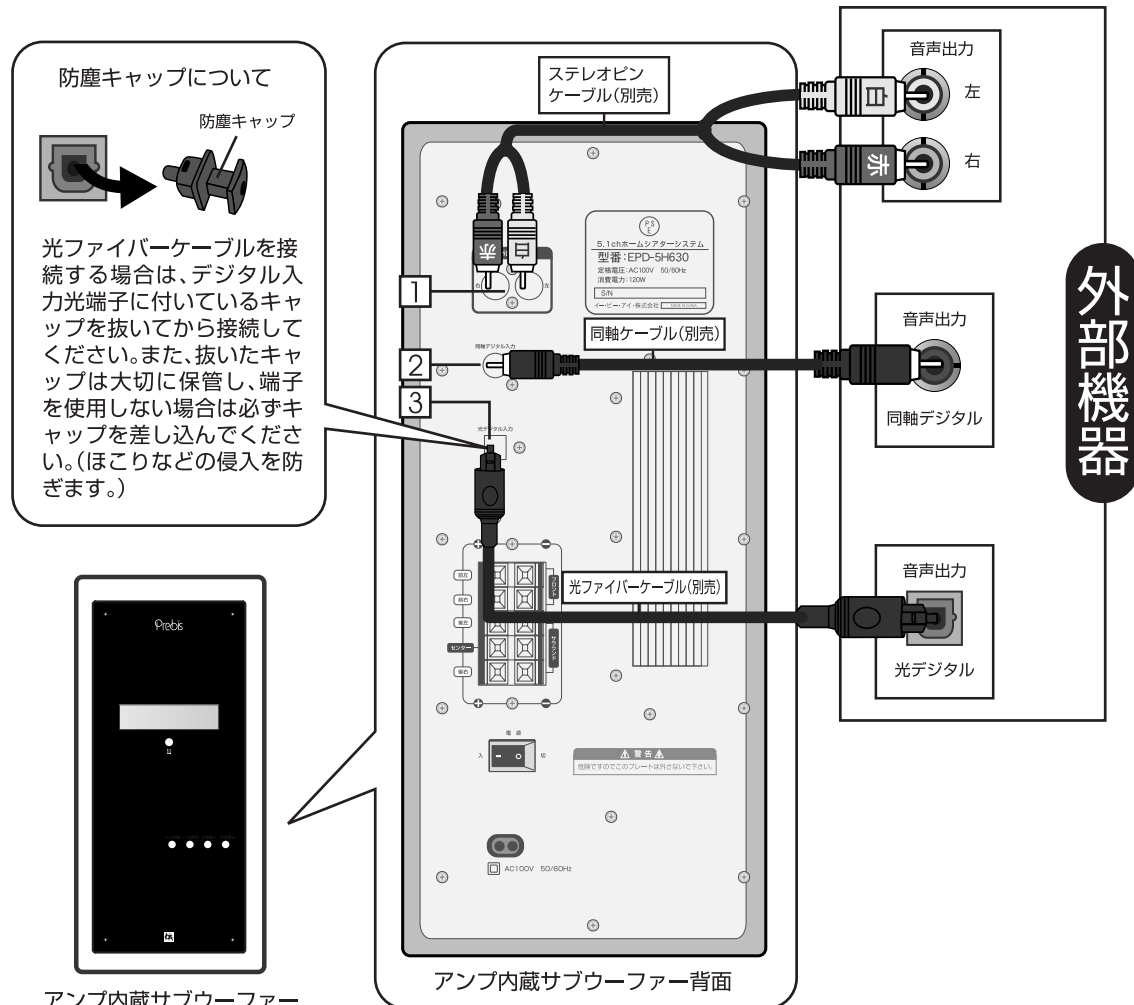
本システムは、テレビ(モニター)やビデオ機器のビデオ信号用入/出力端子とは接続できません。



接続のしかた（つづき）

外部機器とのつなぎかた

接続には、お持ちの機器にあった下記の接続ケーブル（付属または市販）をご用意ください。



① 外部入力（アナログ）端子

ビデオカセットレコーダーなど、デジタル出力端子がない機器のアナログ音声出力端子とステレオピンケーブルを使って接続します。

③ 光デジタル入力端子

DVDプレーヤー、テレビゲーム機、BSデジタルチューナーなどの光デジタル出力端子と光ファイバークーブルを使って接続します。接続した機器からのデジタル音声をお楽しみいただけます。

② 同軸デジタル入力端子

DVDプレーヤー、CDプレーヤー、テレビゲーム機などの同軸デジタル出力端子と同軸ケーブルを使って接続します。接続した機器からのデジタル音声をお楽しみいただけます。

ご注意

- アンプ内蔵サブウーファー背面にはビデオ入力端子がありません。アンプ内蔵サブウーファー背面に接続されたDVDプレーヤーなどを再生するには、DVDプレーヤーのビデオ出力をテレビ（モニター）に接続してください。
- オーディオ出力用3.5mmステレオミニ端子のみを装備しているパソコンなどを接続する場合は、ステレオミニプラグ / ステレオピン変換ケーブルを使用して、アナログ入力端子に接続してください。
- 本システムでは録音、録画はできません。

接続のしかた（つづき）

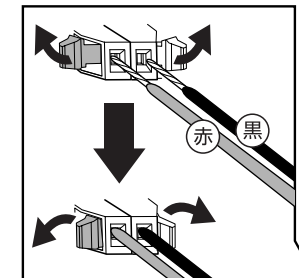
スピーカーのつなぎかた

アンプ内蔵サブウーファーとスピーカーにスピーカーコードを接続します。
フロントスピーカー：2mスピーカーコードをフロントスピーカー入力端子（右・左）、出力端子（右・左）へ。
センタースピーカー：2mスピーカーコードをセンタースピーカー入力端子、出力端子へ。
サラウンドスピーカー：5mスピーカーコードをサラウンドスピーカー入力端子（右・左）、出力端子（右・左）へ。

ご注意

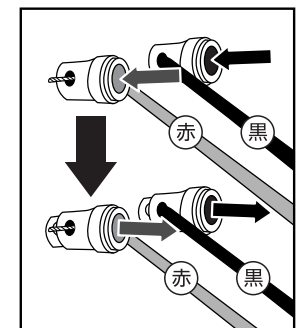
アンプユニット背面のスピーカー端子に同梱のスピーカー以外は接続しないでください。

アンプ内蔵サブウーファー側



レバーを押してスピーカーコードを奥まで差込んで下さい。

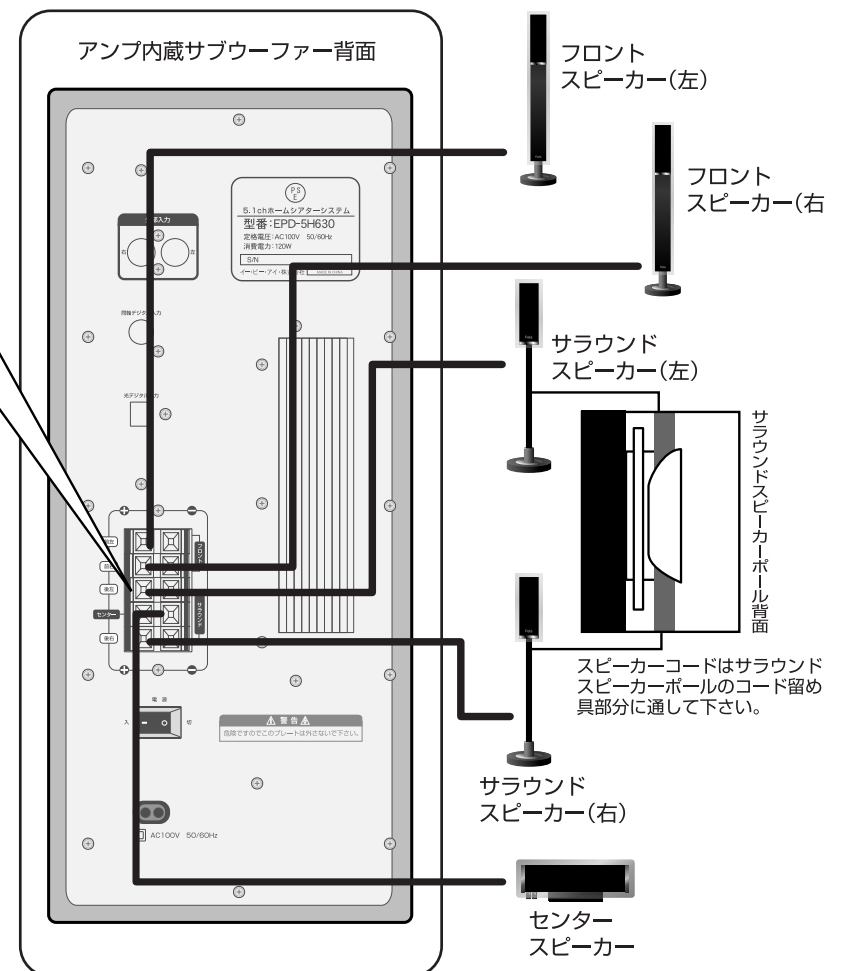
スピーカー側



スピーカー端子を押してスピーカーコードを奥まで差込んで下さい。

ご注意

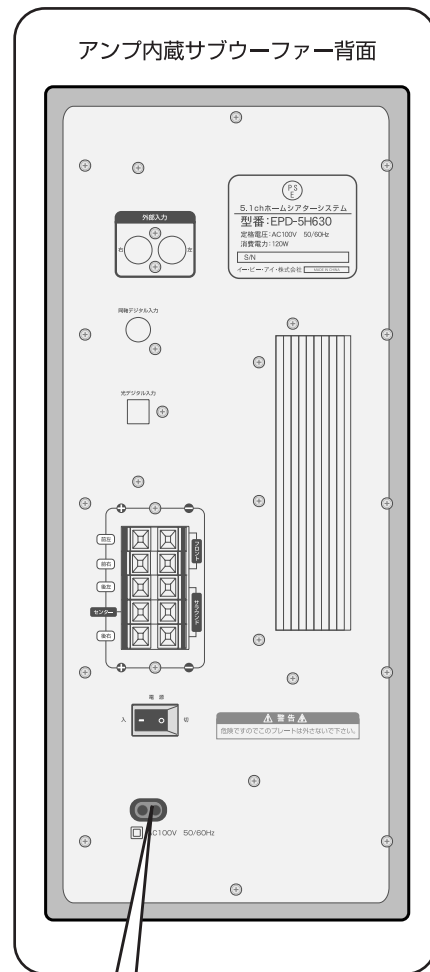
スピーカーケーブル先端が二つに分かれています。黒いラインが入っている方を黒の端子に、赤を赤の端子に接続してください。
※配線を間違えるとショートの原因となります。



- ・アンプ内蔵サブウーファー背面のスピーカー出力端子は、付属のフロント／センター／サラウンドスピーカーの接続専用設計されています。これらの端子には、絶対に他のAVアンプやパワーアンプなどを接続しないでください。誤動作を起こすだけでなく、アンプ内蔵サブウーファーの故障や火災等の原因にもなります。
- ・スピーカーコードは手や足にひっかけないよう、固定してください。

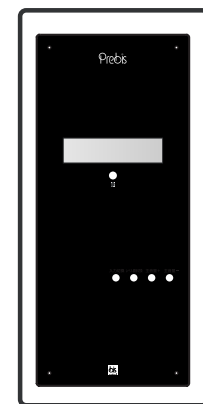
接続のしかた（つづき）

電源コードのつなぎかた

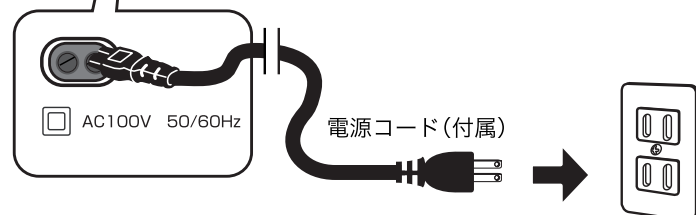


もう一度アンプ内蔵サブウーファーに接続した機器が確実に接続されているか確認してください。最後に、電源コードのプラグを家庭用コンセント(100V、50/60Hz)に差し込みます。

- ① 付属の電源コードをアンプ内蔵ウーファー背面に接続する。
 - ② 電源コードのプラグを家庭用コンセント(100V 50/60Hz)に差し込む。
- ・必ず付属の専用電源コードをご使用ください。他の電源コードの使用は本機の故障や火災の原因となります。
 - ・付属の電源コードは、本機以外の機器に使用しないでください。使用した機器の故障や火災の原因となります。



アンプ内蔵サブウーファー



AC100V 50/60Hzの家庭用電源コンセントに差し込む

各スピーカーの音量レベルを調節する

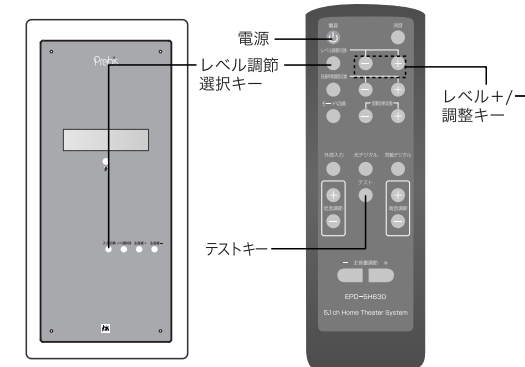
テストトーンを出力して、視聴位置で聞こえる各スピーカーの大きさが同じになるように調節します。この調節は5.1ch出力時に最良の環境で使用するために重要です。

テストトーンで調節する

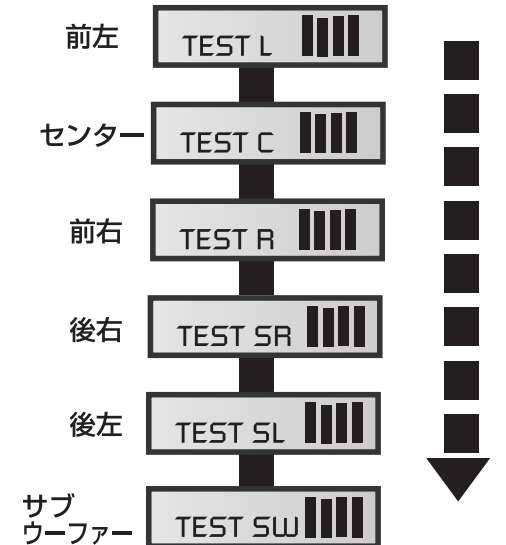
付属のリモコンを使って、各スピーカーの音量を調節します。

ご注意

- ・調節は必ず視聴位置で行ってください。
- ・システム全体の音量が低いとテストトーンが聞こえないことがあります。あらかじめシステム全体の音量を適量に上げておいてください。



- ① 電源キーを押してください。
スリープ状態が解除されます。
- ② テストキーを押す。
テストトーンは、フロント(左)スピーカー→センタースピーカー→フロント(右)スピーカー→ サラウンド(右)スピーカー→サラウンド(左)スピーカー→サブウーファー...の順で巡回し、それぞれ約5秒間ずつ聴こえます。
※ テストトーン出力中は、右上の図のようにアンプ内蔵サブウーファーのディスプレイに、どのスピーカーからテストトーンが出ているかを表示します。



- ③ レベル調節切換キーを押して音量を調整したいスピーカーを選択して下さい。
※ センター・サラウンド/スピーカー、サブウーファーの中から選択して下さい。AUX時はサブウーファーのみ。

アンプ内蔵サブウーファーの音量を調節する

レベル調節選択キーを押してアンプ内蔵サブウーファー「SW」をディスプレイに表示させ、レベル調整+/-キーを押す。
+キーを押すと音量が大きくなり、-キーを押すと小さくなります。
調節中、ディスプレイにはアンプ内蔵サブウーファーの音量を表示します。

サラウンドスピーカーの音量を調節する

レベル調節選択キーを押してサラウンドスピーカー左・右「SL・SR」をディスプレイに表示させ、レベル調整+/-キーを押す。
+キーを押すと音量が大きくなり、-キーを押すと小さくなります。
調節中、ディスプレイにはサラウンドスピーカーの音量を表示します。

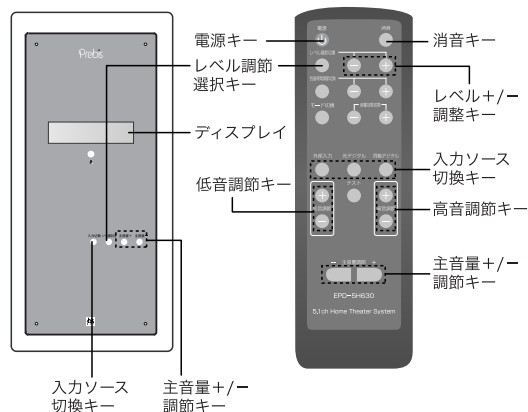
センタースピーカーの音量を調節する

レベル調節選択キーを押してセンタースピーカー「C」をディスプレイに表示させ、レベル調整+/-キーを押す。
+キーを押すと音量が大きくなり、-キーを押すと小さくなります。
調節中、ディスプレイにはセンタースピーカーの音量を表示します。

音を再生する

基本操作

アンプ内蔵サブウーファーに接続した機器の音声を次の手順で再生します。



- ① 電源キーを押してください。
スリープ状態が解除されます。
- ② アンプ内蔵サブウーファーに接続した機器の電源を入れる。
- ③ リモコン又は本体の入力ソース切換キー(外部入力、光デジタル、同軸デジタル)を押して入力ソースを選ぶ。

アンプ内蔵サブウーファーディスプレイに入力ソースが表示されます。



- ④ 機器の再生を始める。
再生する機器の取扱説明書をご覧ください。
- ⑤ リモコン又は本体の主音量+/-調節キーを押して音量を調節する。
アンプ内蔵サブウーファーに入力ソースが表示されます。
- ⑥ リモコンの低音+/-調節キーを押して低音域を調節する。
- ⑦ リモコンの高音+/-調節キーを押して高音域を調節する。

■再生音を聴きながら、スピーカーの音量レベルを調節する

テストトーンでスピーカーの音量を調節してあれば、十分な音響をお楽しみいただけます。又、再生中に各スピーカーの音量レベルをお好みに合わせて調節することもできます。調節できるスピーカーは、サブウーファー、フロント/サラウンド/センタースピーカーです。

アンプ内蔵サブウーファーの音量を調節する

レベル調節選択キーを押してアンプ内蔵サブウーファー「SW」をディスプレイに表示させ、レベル調整+/-キーを押す。
+キーを押すと音量が大きくなり、-キーを押すと小さくなります。
調節中、ディスプレイにはアンプ内蔵サブウーファーの音量を表示します。

サラウンドスピーカーの音量を調節する

レベル調節選択キーを押してサラウンドスピーカー左・右「SL・SR」をディスプレイに表示させ、レベル調整+/-キーを押す。

+キーを押すと音量が大きくなり、-キーを押すと小さくなります。
調節中、ディスプレイにはサラウンドスピーカーの音量を表示します。

センタースピーカーの音量を調節する

レベル調節選択キーを押してセンタースピーカー「C」をディスプレイに表示させ、レベル調整+/-キーを押す。
+キーを押すと音量が大きくなり、-キーを押すと小さくなります。
調節中、ディスプレイにはセンタースピーカーの音量を表示します。

■一時的に音声を消す(消音する)

消音キーを押す。
前の音量に戻すには、もう一度消音キーを押します。

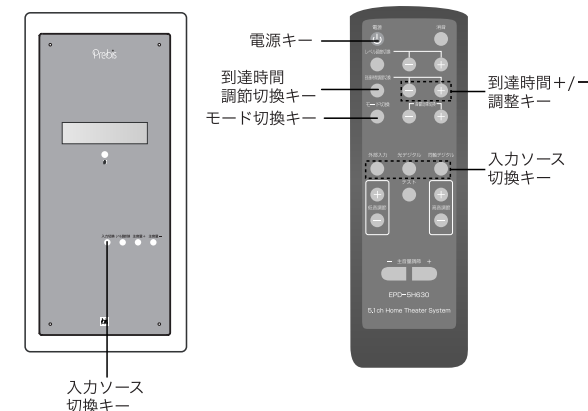
■アンプ内蔵サブウーファーの使用を終了するとき

電源キーを押してアンプ内蔵サブウーファーをスリープ状態にしてください。

音の到達時間を調節する

基本操作

アンプ内蔵ウーファーに接続した機器の音声を次の手順で再生します。



- ① 電源キーを押してください。
スリープ状態が解除されます。
- ② アンプ内蔵サブウーファーに接続した機器の電源を入れる。
- ③ リモコン又は本体の入力ソース切換キー(外部入力、光デジタル、同軸デジタル)を押してデジタル入力ソース(光デジタル・同軸デジタル)を選ぶ。

アンプ内蔵サブウーファーディスプレイに入力ソースが表示されます。



※デジタル入力ソースは上記のみとなります。

- ④ 機器の再生を始める。
再生する機器の取扱説明書をご覧ください。
- ※5.1ch出力で認識されない場合は再生機器側の調整を行なって下さい。



- ⑤ リモコンのモード切換キーを押してDIGITALモードにして下さい。
- ※STEREOモードに設定されている場合は サ
ラウンドスピーカーから出力されません。



- ⑥ リモコンの到達時間調節切換キーを押して到達時間を調節するスピーカーを選ぶ。
アンプ内蔵サブウーファーディスプレイに調節可能なスピーカー(サラウンド・センター)が表示されます。



■再生音を聴きながら、スピーカーの到達時間を調節します。

本機は、スピーカーから視聴位置までの距離に合わせて到達時間を設定することで、より良い環境で視聴を楽しむことができます。

※到達時間を調節できるスピーカーはセンター/サラウンドスピーカーとなります。

1ms=1/1000秒

サラウンドスピーカーの音声到達時間を調節する

到達時間調節切換キーを押して「SUR」をディスプレイに表示させ、到達時間+/-調整キーを押す。
+キーを押すと到達時間が遅くなり、-キーを押すと到達時間が早くなります。
調節中、ディスプレイにはサラウンドスピーカーの到達遅延時間を表示します。

●調整可能な時間領域



センタースピーカーの音声到達時間を調節する

到達時間調節切換キーを押して「CEN」をディスプレイに表示させ、到達時間+/-調整キーを押す。
+キーを押すと到達時間が遅くなり、-キーを押すと到達時間が早くなります。
調節中、ディスプレイにはセンタースピーカーの到達遅延時間を表示します。

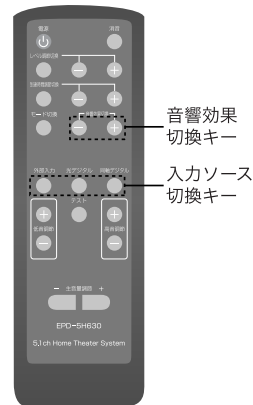
●調整可能な時間領域



様々なシネマDSP音響プログラムを楽しむ

ご注意 外部(アナログ)出力時にのみ機能します。

映画やコンサート、スポーツ中継などさまざまな再生ソースの音声を、シネマDSPの音場プログラム効果でさらに豊かに楽しめます。
再生するソースに合わせてそれぞれのプログラムから選んでください。



- ① リモコン又は本体の入力ソース切換キー(外部入力、光デジタル、同軸デジタル)を押してアナログ入力ソース(外部出力)を選ぶ。

アンプ内蔵サブウーファースのディスプレイに入力ソースが表示されます。



※アナログ入力ソースは上記のみとなります。

- ② ソースを再生する
「音声を再生する」(17ページ)をご覧ください。
- ③ 音響効果切換キー+/-を押して下さい。
※切換時に若干のタイムラグがございます。

■様々なシネマDSP音響プログラムについて

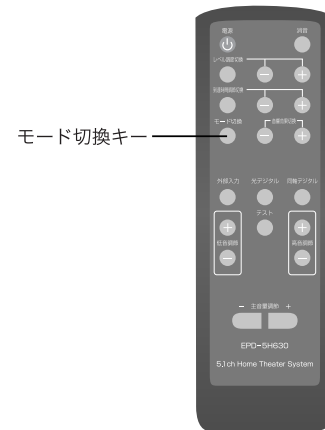
シネマDSPの音響プログラムの特長は次のとおりです。音響プログラムを選ぶときの目安にしてください。また、プログラム名にこだわらずにほかの音場プログラムもお試しいただき、再生ソースやご自分の好みに合った音響プログラムを選んでください。

音響プログラム	特 徴
MATRIX MATRIX	2.1ch信号を5.1chに疑似化して、サラウンド効果を楽しめます。
LIVE LIVE	ライブコンサートホールの熱気と興奮を感じさせる音響です。
CHURCH CHURCH	教会にいる様な広がりのある音響です。
STADIUM STADIUM	スタジアムやドームなどの大空間にいるような響きのある音響です。
HALL HALL	クラブホールにいるような音響です。
CHORUS CHORUS	音に厚みや奥行きをつけます。
THEATER THEATER	映画館で鑑賞している様な雰囲気を楽しめます。
DSP OFF DSP OFF	シネマDSPをOFFにします。

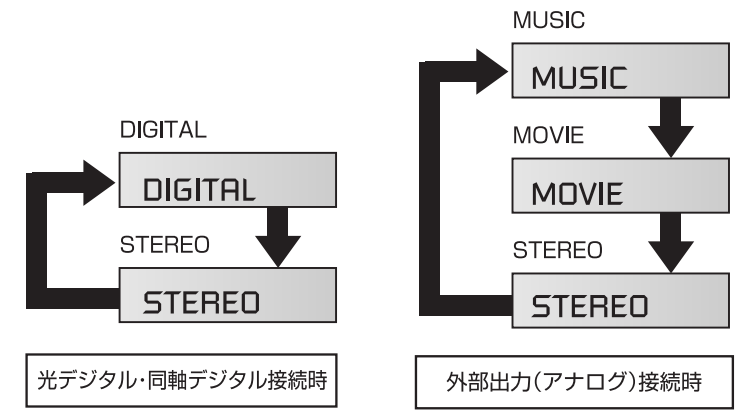
音響効果をOFFにするには
音響効果切換キー+/-を数回押してDSP OFFにして下さい。 DSP OFF

その他の再生モードで楽しむ

ソースの音声を忠実に再現する



- ① ソースを再生する
「音声を再生する」(17ページ)をご覧ください。
- ② モード切換キーを押して下さい。
モード切換キーを押すたびに次のように切り替わり、アンプ内蔵サブウーファースのディスプレイに選択したモードが表示されます。
※切換時に若干のタイムラグがございます。



接続方法	再生モード	特 長
アナログ	MOVIE	DVD映画などの再生に適しています。
	MUSIC	音楽ソフトの再生に適しています。
デジタル	DIGITAL	デジタル信号(ドルビーデジタル/ドルビーデジタルプロロジック2/DTS)で演奏します。
アナログ・デジタル	STEREO	フロントスピーカーのみの出力です。

ご注意

デジタル接続時にSTEREOモードで再生すると、センタースピーカーとフロントスピーカーから音が出ます。
サラウンドスピーカーからは音がほとんど出ません。

故障かな？と思ったら

使用中に本システムが正常に作動しなくなった場合は、以下の点をご確認ください。下記以外で異常が認められた場合や、対処しても正常に作動しない場合は、アンプ内蔵サブウーファースの電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買上げ店またはお問い合わせ電話番号までご連絡ください。

■全般

症状	原因	解決方法
電源を入れてもすぐに切れてしまうか、またはスリープ状態に戻ってしまう。	電源プラグの接続が不完全。	電源プラグをコンセントにしっかり差し込んで下さい。
	アンプ内蔵サブウーファースが落雷や過度の静電気など、外部からの強い電気ショックを受けた。	アンプ内蔵サブウーファースをスリープ状態にし、電源コードを抜いて、約30秒経ってから差し込み直して、電源を入れてください。
音が出ない	接続が不完全。	接続を確認して下さい。
	再生するソースの選択が適切でない。	入力切換キーで正しく選択して下さい。
	スピーカーの接続が不完全。	スピーカーケーブルの接続を確認して下さい。
	音量が絞られている。	音量を大きくして下さい。
	消音されている。	リモコンの消音キーを押して下さい。
フロントスピーカー以外のスピーカーから音が出ない	音響効果・再生モードが適切でない。	音響効果切換キー＋／－を押して別の音響プログラムを選ぶか、モードキーで他の再生モードを選んで下さい。
	ドルビーサラウンドやドルビーデジタル、DTSにサラウンド効果の信号が入っていない。	音響効果切換キー＋／－で別の音場プログラムを選ぶか、モードキーでほかの再生モードを選んでください。
センタースピーカーから音が出ない、または非常に小さい音しか出ない	センタースピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。	レベル調節選択キーを押してセンタースピーカーをディスプレイに表示させ、レベル調節＋を押す。
	ドルビーデジタル、DTS、AACにセンタースピーカーチャンネル信号が含まれていない。	_____
サラウンドスピーカーから音が出ない、または非常に小さい音しか出ない	サラウンドスピーカーの音量レベルが最小まで絞られている。	レベル調節選択キーを押してサラウンドスピーカーをディスプレイに表示させ、レベル調節＋を押す。
	ドルビーデジタル、DTS、AACにセンタースピーカーチャンネル信号が含まれていない。	_____
アンプ内蔵サブウーファースから音が出ない、または非常に小さい音しか出ない。	ソースに低音信号が含まれていない。	_____
	アンプ内蔵サブウーファースの音量レベルが最小まで絞られている。	レベル調節選択キーを押してアンプ内蔵サブウーファースをディスプレイに表示させ、レベル調節＋を押す。

故障かな？と思ったら(つづき)

症状	原因	解決方法
ドルビーデジタル信号のソースを入力し、DIGITALモードを選択しているのに、センタースピーカーとサラウンドスピーカーから音がでない	ドルビーデジタル信号(2チャンネル)のソースを入力している。	入力ソースが5.1チャンネルに対応している場合は、再生機器側で5.1チャンネルを選択してください。(入力ソースが5.1チャンネルに対応していない場合は、2チャンネルでサラウンド音声をお楽しみいただけます。)
ドルビーデジタルまたはDTSの再生ができない。	接続したDVDプレーヤーなどが下記の設定にされてない。 ・「デジタル出力」かつ「ドルビーデジタルまたはDTS」 ・「出力:デジタル」かつ「信号の種類:ドルビーデジタルまたはDTS」	お使いのDVDプレーヤーなどの取扱説明書をご覧ください。
	アンプ内蔵サブウーファースとプレーヤーがデジタル接続されていない。	アンプ内蔵サブウーファースとプレーヤーのデジタル端子どうしを接続してください。
ブーンと音が鳴る	アナログ入力端子の接続が不完全。	アナログ入力端子の接続を確認してください。
音がゆがむ。	入力信号のレベルが高すぎる。	接続機器側の出力レベルを下げてください。
ノイズが気になる。	入力信号のレベルが低すぎる。	接続機器側の出力レベルを上げてください。
	接続が不良または不完全。	接続をやり直してください。
アンプ内蔵サブウーファースが正常に作動しない。	本機内部が外部電気ショック(落雷または過度の静電気)、または電源電圧の低下によってフリーズしている	コンセントから電源プラグを抜き、約30秒後にもう一度差し込んでください。
デジタル機器や高周波機器から雑音が出る。	アンプ内蔵サブウーファースがデジタル機器または高周波機器に接近しすぎている。	アンプ内蔵サブウーファースをそれらの機器から離して設置してください。

■リモコン

症状	原因	解決方法
リモコンで操作できない	リモコン操作範囲から外れている。	アンプ内蔵サブウーファースのリモコン受光窓から6m以内、角度30° 以内の範囲で操作してください。
	アンプ内蔵サブウーファースのリモコン受光窓に直射日光や照明(インバーター蛍光灯など)が当たっている。	照明、または本体の向きを変えてください。
	電池が消耗している。	7ページを参照して電池を交換して下さい。

製品の仕様について

商品名	5.1chホームシアターシステム		
製品番号	EPD-5H630		
電源・電圧	100V 50/60Hz		
消費電力	120W		
重 量 (台の重さ含む)	アンプ内蔵サブウーファー 約8.9kg		
	サラウンドスピーカー 約3.8kg		
	フロントスピーカー 約4.8kg		
	センタースピーカー 約1kg		
実用最大出力	アンプ内蔵サブウーファー 50W		
	サラウンドスピーカー 30W		
	フロントスピーカー 30W		
	センタースピーカー 30W		
抵 抗	アンプ内蔵サブウーファー 8Ω		
	サラウンドスピーカー 4Ω		
	フロントスピーカー 4Ω		
	センタースピーカー 4Ω		
最大許容入力	アンプ内蔵サブウーファー 50W		
	サラウンドスピーカー×2台 20W×2		
	フロントスピーカー×2台 20W×2		
	センタースピーカー 20W		
サイズ	アンプ内蔵サブウーファー 奥行380×幅180×高さ435(mm)		
	サラウンドスピーカー 奥行680×幅115×高さ1180(mm)		
	フロントスピーカー 奥行680×幅115×高さ1265(mm)		
	センタースピーカー 奥行68×幅415×高さ125(mm)		
防磁設計	センタースピーカー		
周波数特性	40Hz～20000Hz		
コード長さ	電源コード 2.1m	スピーカーコード 2m×3本	5m×2本

保証とアフターサービス よくお読みください

保証書

- 保証書は別添付になります。
- 保証書は「お買い上げ日と販売店名」の記入をお確かめのうえ、販売店からお受け取りください。購入時の領収書も必ず保証書に添付をして下さいますようお願いします。
- 保証書はよくお読みになり大切に保管して下さい。

保証期間

お買い上げ日から1年間です

オークション販売、転売については保証期間であっても保証対象外となりますのでご了承ください。

補修用性能部品の保有期間

当社は、5.1chホームシアターシステムの補修用性能部品を、製造打ち切り後5年保有しています。

注)補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

持ち込み修理品になります。

出張修理対応はしておりません。

アフターサービスについて

弊社の商品は、持ち込み修理での対応とさせて頂きます。出張での対応は一切致しません。商品に不具合のある場合は、事前に弊社までご連絡戴きお送り頂くか、購入店にお持ち下さる様お願い申し上げます。

修理を依頼

取扱い説明書の内容をお確かめいただき、直らない場合は、電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店または当社「お問い合わせ番号」までにご相談下さい。

■保証期間中は保証書の規定に従って、お買い上げの販売店または当社の担当が修理又は、交換処理をさせていただきますので、おそれ入りますが、製品に保証書を添えてご持参ください。

■保証期間が過ぎているときは修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

ご連絡内容	
品 名	5.1chホームシアターシステム
品 番	EPD-5H630
お買い上げ日	年 月 日
故障状況	具体的に説明してください

■修理料金のしくみ
修理料金は、技術料・部品代などで構成されています。

技 術 料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。

部 品 代 は修理に使用した部品代です。

見 積 代 は、機器の故障原因を調べる際の手数料です。（修理キャンセル時に発生します。）

送 料 は、修理時に発生する、往復の送料はお客様ご負担です。

お問い合わせ番号

☎03-3863-9066

【受付時間】 10:00～12:30 13:30～17:00 （祝祭日以外の月曜日～金曜日）

〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-9-13 岩本町日光共同ビル2階